



TKK 共通シラバス

1. 科目名	社会貢献実習Ⅱ				
2. 教員名	須釜 幸男		3. 担当大学	神戸学院大学	
4. 対象学年	2年生以上	5. 開講時期	後期	6. 単位数	2単位

7. 授業の目的・到達目標（神）、授業のねらい及び具体的な達成目標（工）、授業の概要（内容）・到達目標（東）

「社会貢献」が盛んで、当然の流れにある。その一方で、社会貢献には「これ」という定型が存在しない。私達が単独・集団で、その信条に基づき、社会に対して責任を持ち、貢献する行為を実践している。社会貢献の内容・手段は、私達の身近な事柄から既成概念を打ち破るような事柄まで、多岐に亘る。日頃から広い視野を持って、調べ、聞き、伝え、考え、判断することにより、社会貢献として自らが何を対象として、（１）誰に対して行動するのか、（２）その実践がどういう方向・結果を生み出すのかを考える。

本講座では、①社会に存在する事象を知ること、②行動を通じて、自らが「社会に貢献する」重要性を学ぶ。

この科目は実務経験のある教員による実践的教育から構成される授業として、社会防災学科ディプロマポリシー３「主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度」に関連する。

日頃、頻繁に耳にする身近なテーマから、耳馴染みないテーマまで、時に自らの力で、時にチームの力で取り組み、いつか、どこかで、誰かのための何かをするべく、より豊かな人間性を育むことを目的とする。

具体的には①社会のなかで生活する自己の役割・立場を理解でき、②実践を通じて、社会の様々な課題とその対処を把握し、社会貢献の意義を理解できることである。

8. 授業のキーワード（神）

社会貢献、ボランティア、市民社会、NGO と NPO、CSR（企業の社会的責任）、ソーシャルビジネス（社会的事業）、グループワーク、文献研究、フィールドワーク、ケーススタディ、実践報告など

9. 授業の進め方（神）、授業の方法（東）

学内外での体験・調査を共同レポートにまとめ、数分間の発表（プレゼンテーション）を実施する。他の発表を傾聴・評価し、有益な講評や提案を行なう。フィールドワークは公共施設や社会インフラ施設、報道機関、医療機関、百貨店、ホテルなど、現代社会に密着した施設を訪問予定である。実施例としては、電力会社の協力による共同学習（広報担当や技術担当の出前講義）、水力発電所、火力発電所、原子力発電所への現地視察（バスで福井県若狭湾や京滋方面に）、ガス会社の協力による天然ガス発電所視察（バスで阪和方面に）、自治体の協力による污水处理施設・清掃工場によるリサイクル発電（バスで阪神間に）など。

少人数のグループワークを取り入れ、活発で自発的な発言・行動を期待し、学生と教員で授業を作り上げていく（堅苦しい内容で 90 分間座り続ける授業ではない）。

10. テキスト、参考書、参考図書（神）、教科書・参考書等（東）
テキスト：特に使用しない（プリントや資料を配布する） 参考図書：前林清和編著、須釜幸男ほか『アクティブラーニング—理論と実践—』デザインエッグ、2015年。
11. 事前、事後に受講してほしい講義等（東）
【事前に受講してほしい講義等】 無 【事後に受講してほしい講義等】 無
12. 提出課題など（神）
随時、提示する予定
13. 評価基準（神）、成績評価方法及び水準（工）、評価の方法・基準（東）
レポート（30%）、受講時の発言、質疑などの積極性（30%）、発表（40%）
14. 履修するにあたって（神）、学生へのメッセージ（工）、授業時間外学習（予習・復習）・履修上の注意事項（東）
報道や文芸、エンターテインメントなどを通じ、社会の時流とニーズを看取すると同時に、社会に対して自分には何が可能かを思案・実践（社会貢献）すること（事前・事後学習各1時間程度） 新型コロナウイルスの拡大状況に応じ、講義・演習を展開する場合もある。
15. 参考（ホームページ（神）、オフィスアワー（工）等）
例年、電力会社の協力の下、フィールドワーク（水力・火力・原子力発電所などの視察）を実施。今回もその予定につき、関連するWEBを閲覧すること。オフィスアワーは授業前後。

【授業計画（神）（東）、授業計画及び準備学習（工）】

講義番号	主題	内容
第1回	オリエンテーション	授業展開を説明し、自己紹介やグループ編成などを実施する
第2回	文献研究①	企業や団体、個人での社会貢献活動の事例を読み解く
第3回	文献研究②	日本内外での社会貢献活動の歴史・動向を紐解く
第4回	フィールドワークの準備①	訪問先の概要・社会貢献活動を調査し、質問項目をまとめる
第5回	フィールドワークの準備②	訪問計画をグループごとに発表・講評し合い、計画を磨き上げる
第6回	フィールド実習①	調査訪問先の歴史や社会貢献活動、体験者の説明・感想を聞く
第7回	フィールド実習②	具体的活動について、用意した質問項目からヒアリングを実施する
第8回	フィールド実習③	具体的活動について、用意した質問項目からヒアリングを実施する
第9回	フィールドワーク①	訪問先の社会貢献活動を肌で感じ、自ら体験してみる
第10回	フィールドワーク②	訪問先の社会貢献活動を肌で感じ、自ら体験してみる

第 11 回	フィールドワークの整理①	訪問先で学んだ内容を各自が整理し、レポートを作成する
第 12 回	フィールドワークの整理②	各レポートを基に、グループ内でディスカッションを実施する
第 13 回	中間報告の準備①	中間報告（グループ発表）の資料を作成する
第 14 回	中間報告の準備②	効果的なプレゼン方法を検討し、質問と応答を想定する
第 15 回	中間報告会	グループ単位による実践報告の上、互いに傾聴し、講評し合う
第 16 回	中間報告会の振り返り①	中間報告会後に、講評（訪問先や他グループ）を踏まえ報告内容を再検討する
第 17 回	中間報告会の振り返り②	中間報告会後に、講評（訪問先や他グループ）を踏まえ報告内容を再検討する
第 18 回	ケーススタディ①	社会貢献に著名な歴史的企業や偉人を調査する
第 19 回	ケーススタディ②	対象の理念や実績から知見や教訓をまとめ、社会貢献像を浮き彫りにする
第 20 回	ケーススタディ③	今後の社会貢献の在り方を考え、自らのアイディアをまとめる
第 21 回	社会貢献活動の提言①	再度、訪問先と意見交換をし、アイディアを提言する
第 22 回	社会貢献活動の提言②	再度、訪問先と意見交換をし、アイディアを提言する
第 23 回	社会貢献活動の実践①	訪問先の社会貢献活動を再体験し、より積極的に社会貢献活動に臨む
第 24 回	社会貢献活動の実践②	訪問先の社会貢献活動を再体験し、より積極的に社会貢献活動に臨む
第 25 回	社会貢献活動の実践③	訪問先の社会貢献活動を再体験し、より積極的に社会貢献活動に臨む
第 26 回	社会貢献活動の振り返り①	再訪問で体得した内容を各自が整理し、レポートを作成する
第 27 回	社会貢献活動の振り返り②	各レポートを基に、グループ内でディスカッションを実施する
第 28 回	社会貢献活動の振り返り③	最終報告（グループ発表）の資料を作成する
第 29 回	社会貢献活動の解説	効果的なプレゼン方法を検討し、質問と応答を想定する
第 30 回	最終報告会	グループ単位による実践報告の上、互いに傾聴し、講評し合う

【コンピテンシー】 ※コンピテンシーについての詳しい説明は[こちら](#)。

コンピテンシー	ポイント
マインド的コンピテンシー	5
成果を挙げるためのコアコンピテンシー	3
受容的コンピテンシー	4
応用的コンピテンシー	4
対人・集团的コンピテンシー	5

コメント
本講義では、特に「マインド的コンピテンシー」と「対人・集团的コンピテンシー」の向上を目指す。社会貢献意識や倫理意識の醸成、対人関係力の向上に力を入れる。